

プレスリリース 2025.07.14

LIVES

開館10周年記念 富山市ガラス美術館所蔵品選

10th Anniversary Exhibition: Lives

Masterpieces from the Toyama Glass Art Museum Collection

- 展覧会名** 開館 10 周年記念：Lives—富山市ガラス美術館所蔵品選
- 会 期** 2025 年 7 月 18 日（金）～10 月 13 日（月・祝）
- 会 場** 富山市ガラス美術館 2・3 階 展示室 1-3
- 主 催** 富山市ガラス美術館
- 後 援** 北日本新聞社、富山新聞社、NHK 富山放送局、北日本放送、富山テレビ放送、
チューリップテレビ
- 開場時間** 9:30-18:00（金・土曜日は 20:00 まで、入場は閉場の 30 分前まで）
- 閉 場 日** 第 1・3 水曜日（9 月 3 日は開場）、9 月 10 日（水）
- 観 覧 料** 一般 1,200 円（1,000 円）、大学生 1,000 円（800 円）
※（ ）内は 20 名以上の団体
※本展観覧券で常設展（4 階、6 階）もご覧いただけます
【前売券取り扱い】一般 1,000 円のみ、7 月 17 日（木）まで
TOYAMA キラリ 1 階総合案内／アスネットカウンターTel 076-445-5511

※下記に該当する方は観覧料が無料となります。

- 高校生以下の方 ○富山市に住所登録がある 70 歳以上の方 ○おでかけ定期券をご提示の 65 歳以上の
方○身体障がい者手帳、療育手帳、または精神障がい者保健福祉手帳をご提示の方及びその介助者（1 名）
○団体引率者



Utenriksdepartementet

**Norwegian
Crafts**

お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp



富山市
ガラス美術館
TOYAMA
GLASS ART MUSEUM



展覧会について

本展では、富山市ガラス美術館が所蔵する約 600 点の作品の中から、21 名の作家により制作された作品約 50 点に焦点を当て、それぞれの作品に表された「生=Lives」をご紹介します。

Life（ライフ）や live（リブ）という言葉には、「命」「生き物」「生活」「動き」など、様々な意味を含んでいます。それらは、今を生きる私たちの存在や状態を示す言葉であると同時に、古くから多くの芸術家たちが取り組んできた大きなテーマと言えます。また、2025 年で美術館は開館から 10 年を迎えます。この 10 年という長くも短い時間の間、私たちは穏やかな日常を過ごす一方で、感染症の世界的流行や、地震をはじめとする大規模災害の発生、戦争の勃発などに遭遇しました。われわれを取り巻く環境や情勢は急速に変化を見せ、今この時も「生」の在り方や大切さについて問うような出来事や転機に直面し続けています。本展の出品作品に見る「生」の表現や、繊細でありながらも力強い造形、感情や記憶を揺さぶるような視覚的・聴覚的な体験を通して、改めて自分自身や身近な事物へと目を向け、揺れ動く時勢の中でどのように生き、歩んでゆくのかを、ともに見つめ、分かち合う機会となれば幸いです。

出品作家 21 名（予定、記載はアルファベット順）

ケイト・ベイカー、ハワード・ベン・トレ、アエサ・ビョルク、シゲフジシロ、
藤田喬平、言上真舟、ダフナ・カフマン、マルタ・クロノフスカ、小曾川瑠那、
スタニスラフ・リベンスキー&ヤロスラヴァ・ブリフトヴァー、
ハーヴェイ・K・リトルトン、マリア・ルゴッシー、アレナ・マチェイカ、
ハビエル・ペレス、カースティ・レイ、佐々木類、イヴァナ・シュラームコヴァー、
リノ・タリアピエトラ、高橋禎彦、ダリア・トルスカイトウ、アン・ヴォルフ

QR コードを読み込むことで、本展覧会の概要を多言語にてご覧いただけます。
（日本語、英語、簡体字、繁体字、ハングル、仏語、独語、伊語に対応）



お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号
Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp



富山市
ガラス美術館
TOYAMA
GLASS ART MUSEUM



展示内容

I 「生」の活力

炉の中で高温に熱せられたガラスが柔らかに溶け、赤く輝きながら熱を放つ様子は、生の「活力」そのものを連想させ、多くの人々を魅了してきました。また、溶けたガラスに息を吹き込み成形する吹きガラスの技法は、しばしばガラスに息を吹き込む敬虔なる儀式になぞらえられてきました。作家たちは持ちうる技術や道具を駆使してガラスをコントロールしながらも、時にガラス自身の動きにゆだね、冷え固まるまでの限られた時間の中で、最も美しい瞬間を造形として留めようと試みてきました。

本セクションでは、現代ガラスの発展に寄与し、主に吹きガラスの技法を用いながら造形表現を探究してきた作家3名の作品をご紹介します。彼らの作品に見られる色鮮やかで力強い表現には、作家自身がガラスを扱う際の身体的な動きやリズム、ガラスと対話する中で引き出された形や表情、そして制作現場を取り巻くエネルギーといった生の「活力」が息づいています。



- 1 ハーヴェイ・K・リトルトン《黄色の冠Ⅱ》
1984年 撮影：斎城卓
- 2 リノ・タリアピエトラ《アフリカ》2014年
撮影：末正真礼生

II 内なる「生」

ガラスは固く高い強度を持つ素材でありながら、小さな傷一つで割れてしまうほど繊細で、脆く壊れやすいといった側面を持ちます。また、光を透過させる一方で、反射・吸収するという特性も備えています。このような相反するガラスの性質は、強さと弱さ、美しさと醜さ、外面の表情と心の内にある感情といった、人間が本質的に持つ両義性とも重なり合います。

本セクションでは、人間の内に秘めた感情や心の動きなどをテーマに制作された作品約20点を展示します。作家たちは、人の持つ複雑で多様な感情や性質を抽出し、人間の姿や身体の一部、或いは動物をモチーフとして、ガラスを通して可視化することを試んでいます。彼らの作品に表された多彩な感情や、身体、或いは表情の動きに込められた心情は、私たちの心を深く揺さぶるような魅力に満ちています。

お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp

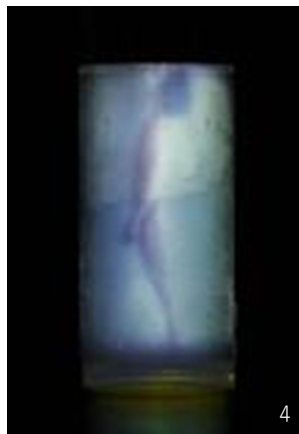


富山市
ガラス美術館
TOYAMA
GLASS ART MUSEUM





3



4

3 ケイト・ベイカー 《Within Matter #7》2020年
撮影：末正真礼生

4 アエサ・ビョルク 《シールドⅡ》2018年
撮影：岡村喜知郎

Ⅲ 「生」の記憶

幼いころの体験や、かつて熱中していた遊び、日常生活の中で何気なく見聞きしていたものの記憶が、ふとした瞬間にさまざまな感情とともに蘇ることがあります。視覚や聴覚、嗅覚といった五感の一部を伴いながら思い出されるそれらの記憶は、過去に自分が経験した出来事であると同時に、現在の自分を形作る重要な要素と言えます。

本セクションでは、『『生』の記憶』と題し、自然や日常生活の中に存在するもの—植物や昆虫、衣服、折り紙など—をモチーフに制作された作品9点に焦点を当てます。作家自身の経験が反映されたこれらの作品は、非常に私的な記憶の表れでありつつも、その存在をおぼろげに感じさせるガラスの透明性や、そこに表現された身近なモチーフによって、見るもの自身の記憶や懐かしさ、共感を呼び起こします。



5



6

5 佐々木類 《植物の記憶／Subtle Intimacy》2019年 撮影：岡村喜知郎

6 言上真舟 《Crumbs from a labyrinth》2019年 撮影：末正真礼生

お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp



富山市
ガラス美術館
TOYAMA
GLASS ART MUSEUM



IV 尊い「生」

生や死、生命の探求は、芸術をはじめとする学術領域において、古来より取り組まれてきた根源的なテーマと言えます。生命が生まれ、生き、死に向かうことは、命あるものすべてにとって避けることのできない運命と言えます。誕生の喜びがある一方で、人生の中での経験や迷い、未知なる死への恐れと不安は、私たち自身の存在に対する問いかけや内省を促し、救いや永続性への渴望、そしてさまざまな感情の表出をもたらします。

本セクションでは、生や死について想起させるような色や形、比喩的なモチーフを通じて、生命の誕生、過ぎ行く時間の儚さ、鎮魂、命の循環などをテーマに制作を行う6名の作家の作品をご紹介します。空間全体を用いて展開される作家たちの印象的な作品は、個人的な創造と思索の域を超え、生命の普遍的な在り方やその神秘性を私たちに示しています。



7 スタニスラフ・リベンスキー&ヤロスラヴァ・ブリフトヴァー《傾き》2000年 撮影：斎城卓

8 ハワード・ベン・トレ《大水盤》1999年 撮影：斎城卓

お問い合わせ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp



富山市
ガラス美術館
TOYAMA
GLASS ART MUSEUM



関連プログラム

学芸員によるギャラリートーク

日 時：7月19日（土）、8月16日（土）、8月30日（土）、9月27日（土）、
10月11日（土）

会 場：富山市ガラス美術館 2・3階展示室1-3

○参加無料、申込不要

※展示室への入場には、本展観覧券が必要です。

フレームワーク制作体験ワークショップ

日 時：8月2日（土）①午前10時から ②午後2時から

会 場：富山ガラス造形研究所

講 師：小曾川瑠那（ガラス作家）

対 象：小学5年生以上（中学生以下は要保護者同伴）

参加費：1,000円

○要・事前申込み（応募多数の場合は抽選）

万華鏡制作ワークショップ

日 時：9月13日（土）午前10時から

会 場：富山市ガラス美術館2階ロビー

対 象：小学生以上（小学生は要保護者同伴）

参加費：2,200円

○要・事前申込み（応募多数の場合は抽選）

※展示室への入場には、本展観覧券が必要です。

※関連プログラムの詳細は美術館公式ウェブサイトやSNSなどでお知らせします。

※プログラムは都合により中止、または変更となる場合があります。

最新の情報は美術館公式ウェブサイトをご確認ください。

お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp



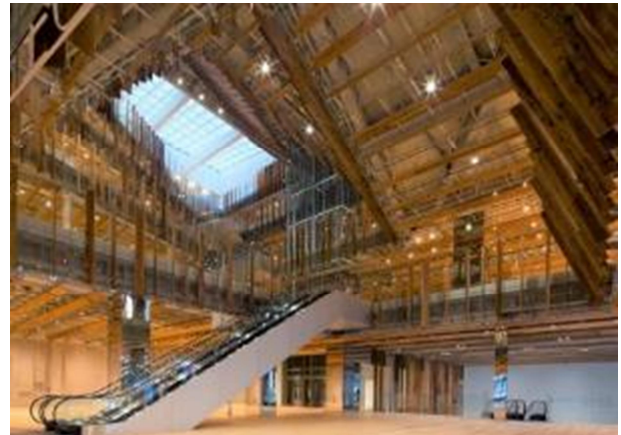
富山市
ガラス美術館
TOYAMA
GLASS ART MUSEUM



美術館概要



9. 富山市ガラス美術館 外観



10. 富山市ガラス美術館 内観

富山市ガラス美術館は、「ガラスの街とやま」を目指したまちづくりの一環として、2015年8月に開館しました。本美術館は富山市立図書館本館などが入居する複合施設「TOYAMA キラリ」内に整備され、富山市の中心市街地に位置することから、文化芸術の拠点としてだけでなく、まちなかの新たな魅力創出の役割を担ってきました。

世界的な建築家の隈研吾氏が設計を手掛けた建物は、御影石、ガラス、アルミの異なる素材を組み合わせ、表情豊かな立山連峰を彷彿とさせる外観となっています。また、内部は富山県産材のルーバー（羽板）を活用した開放的な空間となっています。

常設展として、アメリカの現代ガラスの巨匠、デイル・チフリー氏によるインスタレーション作品を展示する6階「グラス・アート・ガーデン」のほか、所蔵作品を紹介する4階「コレクション展」や2階から4階の展示室壁面などに富山ゆかりの作家が制作した作品を展示する「グラス・アート・パサージュ」があります。また企画展では1950年代以降のグラス・アートを中心に、様々な美術表現を紹介しています。

交通アクセス

〔 富山駅より 〕

○徒歩 20 分 ○市内電車南富山駅前行に乗り、「西町（にしちょう）」下車、徒歩 1 分

○市内電車環状線に乗り、「グランドプラザ前」下車、徒歩 2 分

（富山駅から「西町」「グランドプラザ前」まで約 10 分）

〔 富山空港より 〕

○地鉄バス（富山空港線）「総曲輪（そうがわ）」下車、徒歩 4 分

お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp



富山市
ガラス美術館
TOYAMA
GLASS ART MUSEUM



美術館公式 SNS アカウント



Instagram

アカウント名
toyamaglassartmuseum
美術館



Facebook

アカウント名
toyamaglassartmuseum



Youtube

チャンネル名
ToyamaGlassArtMuseum 富山市ガラス
美術館

報道関係のお問合せ先

富山市ガラス美術館

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

E-mail bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp (代表)

広報担当：宇於崎、小谷 展覧会担当：古澤

広報用画像の貸出しについて

p.3～5、7 の画像 1～10 を広報用に貸出します。ご希望の方は、p.9 の画像貸出し申請書の

使用条件をご確認の上、メールまたは Fax にて上記の美術館広報担当へ申請書をお送りください。

お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp



富山市
ガラス美術館
TOYAMA
GLASS ART MUSEUM



年 月 日

(宛先) 富山市ガラス美術館長

担当者：_____
Tel：_____
Fax：_____
E-mail：_____
住所：_____
団体名：_____

富山市ガラス美術館 画像貸出し申請書

次のとおり、掲載用素材として企画展「開館 10 周年記念：Lives—富山市ガラス美術館所蔵品選」の画像を申し込みます。

1. 掲載（放映）媒体名：_____
2. 媒体種別：TV 新聞 雑誌 フリーペーパー 電子書籍 WEB サイト 携帯媒体
その他（_____）
3. 掲載の趣旨
別紙のとおり（媒体資料を添付してください）_____
4. 掲載（放映）日時：_____
5. ご希望の画像番号：_____

- ☐ 画像は原則、全図でご使用ください。トリミング、部分使用、縦横比の変更、文字のせはご遠慮ください。
- ☐ 画像掲出には別途指定するキャプションを必ず入れてください。
- ☐ 展覧会広報のみにご使用ください。他の目的でのご使用は固くお断りいたします。
- ☐ 商品のPR等の商業利用に関しては画像の提供は出来ません。
- ☐ 画像の2次使用はご遠慮ください。
※画像が使用できる期間は展覧会期間内のみとなります。
※同一記事の再掲載や再放送等については再申請が必要となります。
- ☐ 校正ゲラの段階で情報の確認をさせてください。
- ☐ 記事が掲載された場合は掲載見本（DVD、掲載紙、掲載誌等）を美術館広報担当へご寄贈ください。

申請書送付先：富山市ガラス美術館 広報担当 E-mail: bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Fax：076-461-3310

お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp



富山市
ガラス美術館
TOYAMA
GLASS ART MUSEUM

